

優先度評価結果一覧表

地点番号	第一次スクリーニング							第二次スクリーニング計画															その他		想定被害形態						
	盛土造成地の位置	盛土造成地の規模			大規模盛土造成地の抽出			優先度評価															保全対象								
	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	原地盤面の勾配(度)	高さ(m)	谷埋め型	腹付け型	大規模盛土造成地の種類	①盛土/擁壁の形状・構造					②変状				③地下水	④盛土の下の不安定土層	⑤造成年代		⑥変動確率	特記事項	優先度	住宅		公共施設等	既存調査結果(土質・地下水・N値等)				
α			面積3000㎡以上		のり面勾配	小段間隔		のり面・保護工	ひな壇部分の傾斜	擁壁構造	宅地地盤	擁壁	のり面	周辺施設	造成年代	統計的側部抵抗モデルによる安全性評価指数															
1	大沢	8,293	22.2	17.2	×	○	腹付け型	急	不適	不適	—	—	非該当	無	—	無	無	無	無	無	不明	S53~S63	以後	0.675	大	腹付け盛土であることを確認した。右端付近のり面上方に軽微な表層崩壊が見られたが、盛土上面、のり肩、及び末端部に滑動・崩落を示唆するような変状は認められず、地下水も認められない。しかしながら、盛土材料として捨石や廃タイヤなどが確認され不均質であることや、盛土のり面勾配は、1:1.4と急勾配で、小段の設置も認められない。現在のところ、安定した状況にあると判断されるが、大規模地震発生時には盛土の不安定化に注意を要する。	A	無	河川	無	崩壊
2	織笠	7,775	9.2	21.3	○	×	谷埋め型	緩	適	適	—	適	該当	無	無	無	無	無	無	無	無	H25	以後	1.500	小	谷埋め盛土であることを確認した。盛土末端部を構成するのり面、及び擁壁は、標準的な構造となっている。盛土上面部、及びのり面に変状は確認できず、また、地下水も確認されていないことから、安定した状況にあると判断される。	C	25軒	道路	無	崩壊
3	織笠	11,349	5.8	19.2	○	×	谷埋め型	緩	適	適	—	適	該当	無	無	無	無	無	可能性有	不明	S53~S57	以後	1.085	小	谷埋め盛土であることを確認した。盛土上面、のり肩、のり面、及び末端部に滑動・崩落を示唆するような変状は特に認められない。のり尻擁壁の暗渠排水から出水が確認されるが少量であり概ね安定した状況にあると判断される。	B	無	避難所	無	崩壊	
4	織笠	8,177	7.2	21.3	○	×	谷埋め型	緩	適	適	—	適	該当	無	無	無	無	無	可能性有	不明	S53~S57	以後	1.123	小	谷埋め盛土であることを確認した。左端付近の盛土のり面には、表層崩壊とガリ浸食による排水溝の破損が認められたが、盛土上面、のり肩、のり面、及び擁壁は、標準的な構造となっている。盛土上面部、及び末端部に滑動・崩落を示唆するような変状は特に認められない。のり尻化法の水路工に出水が確認されるが少量であり、概ね安定した状況にあると判断される。	B	無	避難所	無	崩壊	
5	船越	3,344	6.0	27.7	○	×	谷埋め型	—	—	—	—	—	該当	無	無	無	無	無	無	不明	S53~S59	以後	1.099	小	谷埋め盛土であることを確認した。盛土末端部は、のり面や擁壁構造になっておらず、現地盤面にすりついている状況にある。盛土上面部、及びのり面に変状は確認できず、また、地下水も確認されていないことから、安定した状況にあると判断される。	C	無	無	無	変形	